

NY マーケットレポート (2017年3月9日)

NY 市場では、ECB 理事会後の定例会見で、ドラギ総裁が早期の追加緩和に否定的な姿勢を示したことが好感され、ユーロが主要通貨に対して上昇した。また、米輸入物価指数が予想を上回ったことや、米債券利回りが上昇したことも加わり、ドル円・クロス円は堅調な動きとなった。しかし、原油価格が大幅続落となったことや、米株価が下落したこともあり、一時円が買われる場面もあった。終盤にかけては、米 10 年債利回りが 2014 年 9 月 18 日以来の 2.6% 台まで上昇し、政策金利の動向に敏感な 2 年債利回りが 2009 年 8 月以来の高水準まで上昇したことなどが影響し、ドル円・クロス円は堅調な動きとなった。ドル円は、引け間際に 115.00 を付ける動きとなった。

2017年3月9日 (木)

TOKYO	終値	高値	安値
USD/JPY	114.53	114.59	114.33
EUR/JPY	120.65	120.75	120.50
GBP/JPY	139.22	139.42	139.09
AUD/JPY	86.13	86.27	85.94
EUR/USD	1.0535	1.0549	1.0525

LONDON	高値	安値
USD/JPY	114.94	114.42
EUR/JPY	121.44	120.62
GBP/JPY	139.75	139.10
AUD/JPY	86.29	85.85
EUR/USD	1.0571	1.0533

*東京クローズ～NYオープンまでの高安

NEW YORK	終値	高値	安値
USD/JPY	114.98	115.00	114.53
EUR/JPY	121.58	121.88	120.87
GBP/JPY	139.94	140.03	139.40
AUD/JPY	86.29	86.40	86.06
NZD/JPY	79.33	79.43	79.12
EUR/USD	1.0574	1.0615	1.0543
AUD/USD	0.7505	0.7528	0.7494

米主要株価	終値	前日比
米ダウ平均	20858.19	+2.46
S&P500	2364.87	+1.89
NASDAQ	5838.81	+1.26
日経225 (CME)	19415	+95
トロント総合	15496.84	-0.14
ボルサ指数	47263.92	-275.30
ボベスパ指数	64585.23	-132.79

3/10 経済指標スケジュール

08:50 【日本】1Q景況判断BSI
 09:30 【オーストラリア】1月投資貸付
 09:30 【オーストラリア】1月住宅ローン約定件数
 14:00 【シンガポール】1月小売売上高
 16:00 【ドイツ】4Q労働コスト
 16:00 【ドイツ】1月貿易収支
 16:00 【ドイツ】1月経常収支
 16:00 【ドイツ】2月卸売物価指数
 16:00 【ノルウェー】2月消費者物価指数
 16:00 【ノルウェー】2月生産者物価指数
 16:45 【フランス】1月製造業生産指数
 16:45 【フランス】1月鉱工業生産
 18:30 【英国】1月商品貿易収支
 18:30 【英国】1月鉱工業生産
 18:30 【英国】1月製造業生産高
 22:30 【米国】2月失業率
 22:30 【米国】2月非農業部門雇用者数
 22:30 【カナダ】2月失業率
 22:30 【カナダ】2月雇用ネット変化率
 22:30 【カナダ】2月労働参加率
 00:00 【カナダ】2月NIESR GDP予想
 04:00 【米国】2月財政収支

コモディティ	終値	前日比
NY GOLD	1203.20	-6.20
NY 原油	49.28	-1.00
CME コーン	367.00	-5.25
CBOT 大豆	1011.00	-10.75

米国債利回り	本日	前日
2年債	1.367%	1.350%
3年債	1.681%	1.660%
5年債	2.125%	2.086%
7年債	2.421%	2.382%
10年債	2.594%	2.554%
30年債	3.181%	3.144%

ドイツ10年債	0.426%	0.370%
英国10年債	1.225%	1.218%

3/10 主要会議・講演・その他予定

・米国夏時間移行 (12日～)

NY 市場レポート

21 : 30

◀ 経済指標の結果 ▶

2月米チャレンジャー人員削減数(前年比) -40.0% (前回 -38.8%)



出所 : Bloomberg

指標結果データ

◀ チャレンジャー人員削減数 ▶

	2月	1月	12月	11月	10月	9月
合計	36,957	45,934	33,627	26,936	30,740	44,324
前年比 (%)	-40.0	-38.8	42.4	-13.0	-39.1	-24.7

東部	11,282	4,589	11,162	7,928	7,737	10,715
中西部	5,190	20,902	7,009	5,787	5,816	11,546
西部	16,310	12,295	10,895	11,451	12,733	7,336
南部	4,175	8,148	4,561	1,770	4,454	14,727

21 : 45

◀ 経済指標の結果 ▶

欧州主要政策金利 0.00% (予想 0.00%・前回 0.00%)

欧州限界貸出金利 0.25% (予想 0.25%・前回 0.25%)

欧州中銀預金金利 -0.40% (予想 -0.40%・前回 -0.40%)



出所：Bloomberg

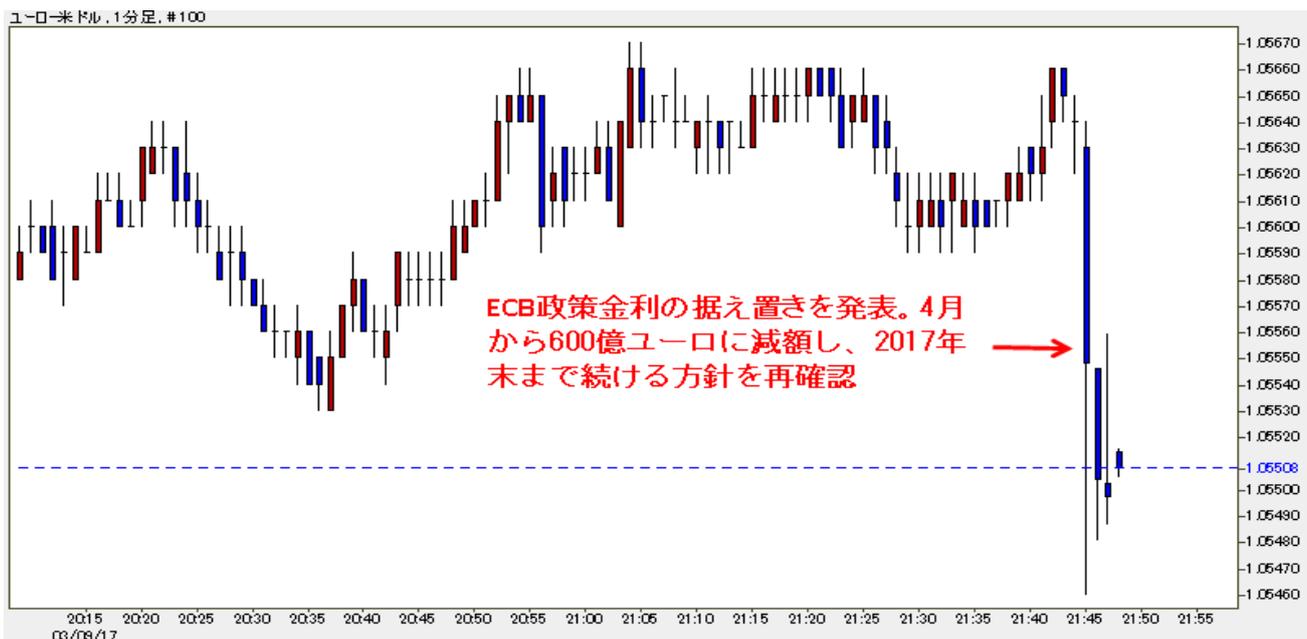
21 : 45

ECB

- ・「資産買い入れ額は3月末まで800億ユーロとする」
- ・「資産買い入れ額は4月から12月まで月額600億ユーロとする」
- ・「金利は長期にわたり現行またはそれ以下の水準にとどまる」

《ポイント》

ECB(欧州中央銀行)は、ユーロ圏19カ国の金融政策を決める理事会を開き、政策金利であるリファイナンスオペの最低応札金利を0.00%、中銀預金金利を-0.40%で据え置いた。また、現行の月額800億ユーロ(約9兆6000億円)の資産購入額を、4月から600億ユーロ(約7兆2700億円)に減らし、少なくとも2017年末まで続ける方針を再確認した。そして、金利は長期にわたり現行水準またはそれ以下にとどまると重ねて表明。資産購入の終了後もかなりの間、低金利を維持することも確認した。



出所：Net Dania

22 : 30

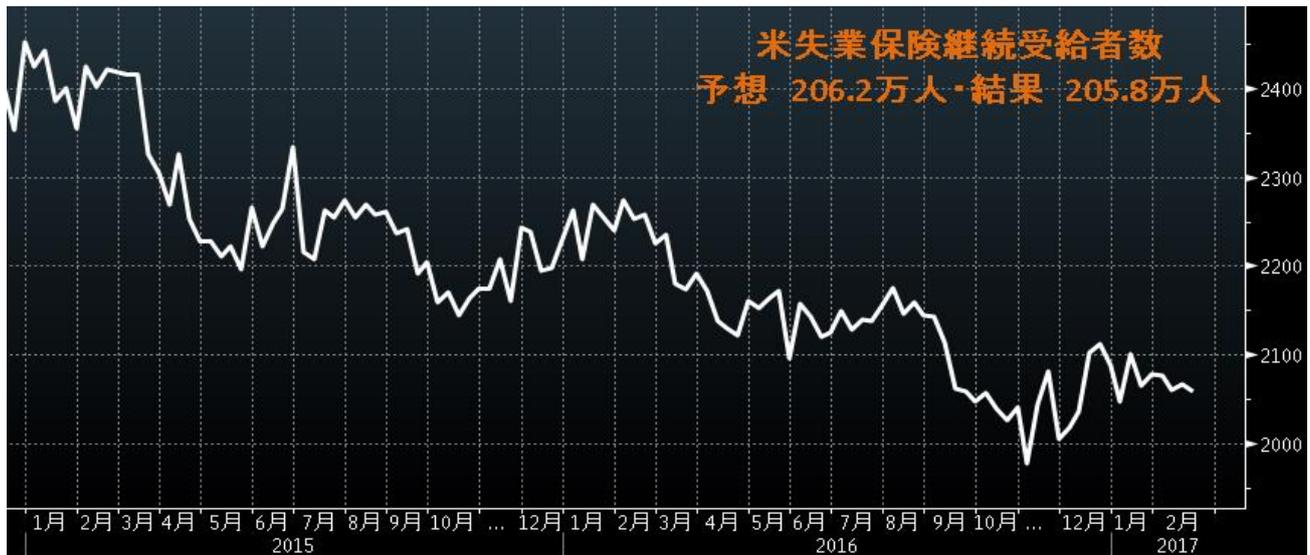
◀ 経済指標の結果 ▶

米新規失業保険申請件数 24.3 万件 (予想 23.8 万件・前回 22.3 万件)

米失業保険継続受給者数 205.8 万人 (予想 206.2 万人・前回 206.4 万人)
 前回発表の 206.6 万人から 206.4 万人に修正



出所 : Bloomberg



出所 : Bloomberg

経済指標データ

◀ 新規失業保険申請件数・継続受給者数 ▶

	申請件数	前週比	4 週移動平均	受給者数	受給者比率
17/03/04	243,000	+20,000	236,500	*****	*****
17/02/25	223,000	-19,000	234,250	2,058,000	1.5%
17/02/18	242,000	4,000	240,500	2,064,000	1.5%
17/02/11	238,000	4,000	245,000	2,063,000	1.5%
17/02/04	234,000	-14,000	244,750	2,077,000	1.5%
17/01/28	248,000	-12,000	248,500	2,079,000	1.5%
17/01/21	260,000	+23,000	245,750	2,063,000	1.5%
17/01/14	237,000	-12,000	247,500	2,103,000	1.5%
17/01/07	249,000	+12,000	257,000	2,059,000	1.5%

受給者数は集計が 1 週間遅れる

米失業保険申請件数は、市場予想の23.8万件を上回る前週比+2.0万件の24.3万件となり、2週ぶりに増加した。また、節目となる30万件は105週連続で下回っている。申請件数の4週移動平均は、前週比+2250件の23万6500件となった。また、集計が1週遅れる失業保険継続受給者数は、前週比-0.6万人の205.8万人となり、2週ぶりに減少となった。受給者総数の4週移動平均は、前週比-5250人の206万5500人。受給者比率は、前週から変わらず1.5%だった。

22:30

◀ 経済指標の結果 ▶

2月米輸入物価指数（前月比） 0.2%（予想 0.1%・前回 0.6%）
 前回発表の0.4%から0.6%に修正

2月米輸入物価指数（前年比） 4.6%（予想 4.4%・前回 3.8%）
 前回発表の3.7%から3.8%に修正



出所：Bloomberg

2月の米輸入物価指数は、市場予想の+0.1%を上回る前月比+0.2%となり、3ヵ月連続のプラスとなった。前年同月比では+4.6%となり、2012年2月以来の値上がり幅となった。食品の値上がりが目立ったものの、石油・石油製品は前月までの大幅な上昇からマイナスに転じた。

①石油・石油製品は、前月比-0.7%、前年同月比では+73.3%と、2010年2月以来の大幅な値上がりとなった。石油以外では、前月比+0.3%、前年同月比では+0.8%となった。品目別では、原油が-0.4%、食品は+1.0%、自動車・同部品は横ばいだった。

②国・地域別では、中南米からの輸入価格が+0.6%、カナダが+0.6%、中国が+0.1%、日本は横ばい、EUは-0.2%、だった。

③輸出物価指数は、前月比+0.3%、前年同月比では+3.1%と2011年12月以来の値上がり幅となった。農産物が+1.4%、前年同月比では+1.6%。農産物以外では、前月比+0.3%、前年同月比では+3.3%、自動車・同部品は横ばい、前年同月比では-0.2%だった。

22:30

◀ 経済指標の結果 ▶

1月カナダ新築住宅価格指数（前月比） 0.1%（予想 0.1%・前回 0.1%）

1月カナダ新築住宅価格指数（前年比） 3.1%（前回 3.0%）



出所 : Bloomberg

22 : 35

◀ 要人発言 ▶

ドラギ ECB 総裁～定例会見

- ・「QE はインフレが持続的に上昇するまで継続する」
- ・「基調的なインフレ圧力は依然弱い」
- ・「極めて大規模な金融緩和が必要だ」
- ・「現在の政策姿勢は適切だ」
- ・「新たな TLTRO (長期資金供給オペ)に関する議論はなかった」
- ・「ECB は、QE 拡大も出口も議論しなかった」

ユーロ-米ドル, 5分足, #100



出所 : Net Dania

22 : 45
ECB

- ・「2017年と2018年の域内成長率見通しを上方修正、2019年据え置き」
- ・「2017年と2018年のインフレ見通し上方修正、2019年は据え置き」

23 : 00

≪ 経済指標の結果 ≫

2月メキシコ消費者物価指数(前月比) 0.58% (予想 0.54%・前回 1.70%)

2月メキシコ消費者物価指数(前年比) 4.86% (予想 4.82%・前回 4.72%)



出所 : Bloomberg

≪ 欧州のポイント ≫

①スコットランド自治政府首相は、独立の是非を問う2度目の住民投票について、英国のEU離脱に先立つ2018年秋にも実施する可能性があるとして述べた。首相は、来年秋というタイミングについて「EUと英国の交渉の大枠がはっきりする中で、スコットランドが選択するのに常識的な時期になると思う」と述べた。憲法の規定では、2度目の住民投票を実施するには英議会の承認が必要となる。

②イタリア中銀によると、第4四半期に大幅に評価損を計上したことから、国内銀行の不良債権額が2年半ぶり低水準となった。中銀によると、1月の評価損と相殺した不良債権額は778億ユーロ(820億ドル)で、12月の868億ユーロから低下、2014年6月以来の低水準となった。1月の延滞債権額は1979億ユーロで、12月の2008億5000万ユーロから減少した。

3 : 00

≪ 米財務省 30年債入札 ≫

最高落札利回り・・・3.170% (前回 3.005%)
 最低落札利回り・・・3.000% (前回 2.888%)
 最高利回り落札比率・・・3.27% (前回 23.53%)
 応札倍率・・・2.34倍 (前回 2.25倍)

＜欧州株式市場＞

欧州株式市場はまちまちの結果となった。英 FT100 指数は、資源株を中心に売られ、独 DAX 指数は ECB 総裁が早期の追加緩和に否定的な姿勢を示したため、金利上昇による収益改善期待で金融株が買われ、小幅高となった。

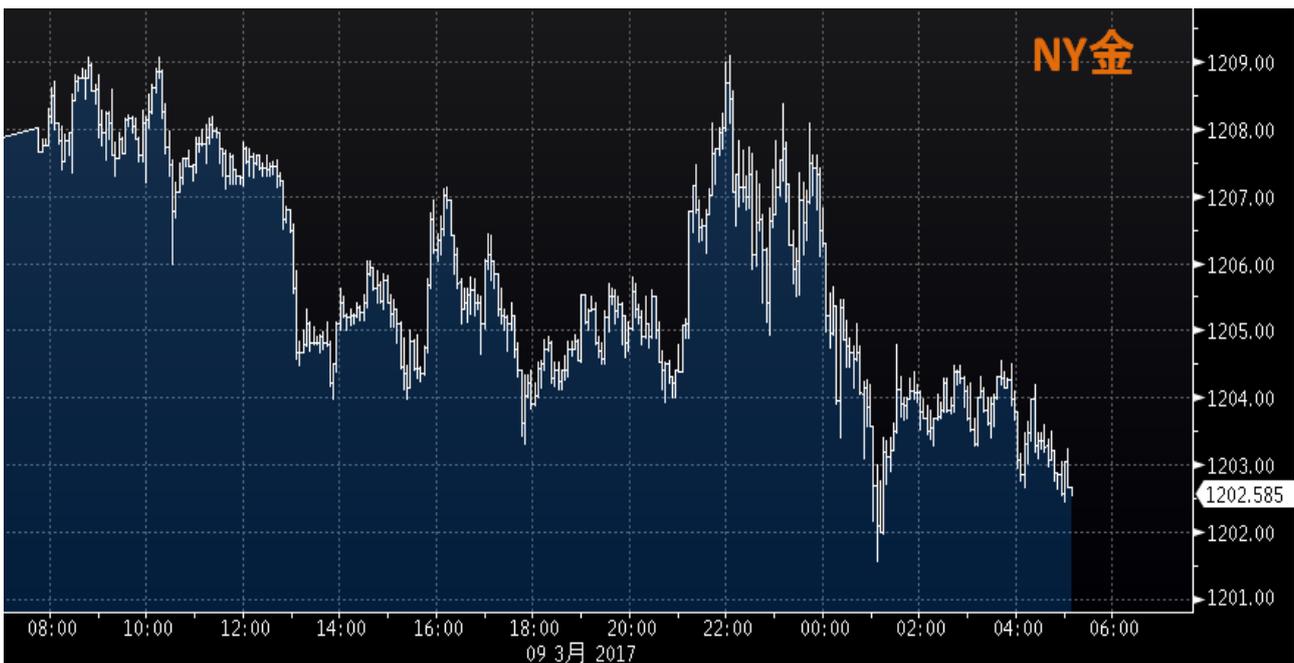


出所：Bloomberg

＜ NY 金市場 ＞

NY 金は、中心限月が前日比 6.20 ドル安の 1 オンス=1203.20 ドルで取引を終了した。

NY 金は、米 FRB が来週にも追加利上げを決定するとの見方が引き続き材料視され、売りが優勢となった。終値ベースでは、1 月下旬以来約 1 ヶ月半ぶりの安値水準となった。

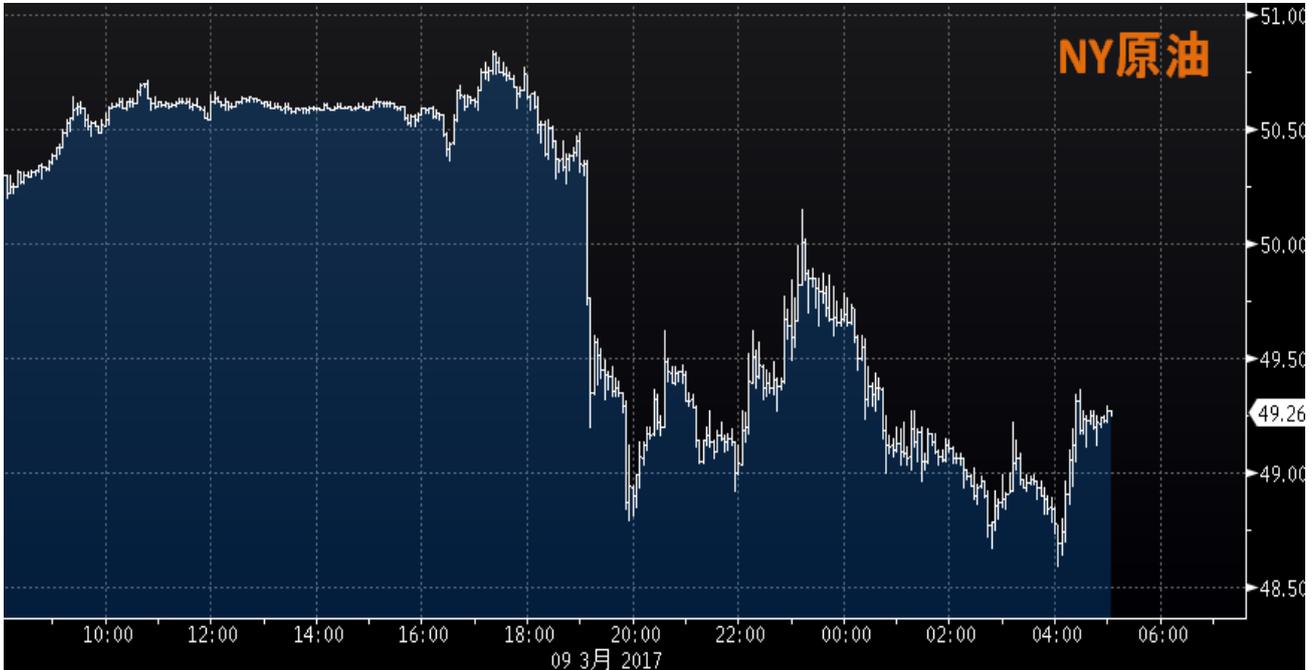


出所：Bloomberg

◀ NY 原油市場 ▶

NY 原油は、中心限月が前日比 1.00 ドル安の 1 バレル=49.28 ドルで取引を終了した。

NY 原油は、前日発表された米原油在庫の大幅増加が引き続き材料視され、OPEC と非加盟国が合意した協調減産では世界的な供給過剰の解消に不十分との懸念が強まったことで売りが優勢となった。終値ベースでは、約 3 ヶ月半ぶりの安値となった。



◀ 米株式市場 ▶

米株式市場は、米 FRB が追加利上げを来週に決めるとの見方から、利上げで恩恵を受ける金融セクターが買われ、序盤は堅調な動きとなった。ただ、原油価格の大幅続落となったこともあり、主要株価はマイナス圏まで下落する場面もあったが、終盤にはプラス圏まで値を戻し、小幅高となった。



《外国為替市場》

外国為替市場は、ECB 総裁が追加緩和に否定的な発言をしたことを受けて、ユーロ買いとなり、また米債券利回りの上昇も加わり、金利差拡大が意識され、円が売られた。ただ、原油価格の下落などの影響で、円が買われる場面もあったが、終盤には再び円売りの展開となった。



出所：総合分析チャート

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複製もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。